

令和4年度 調布市立第三小学校 学校評価報告書（学校長 秋國 光宏）

学校の教育目標	
○情操の豊かな心 ○自主的に学ぶ子 ○明るく健康な子ども	
目指す学校像(ビジョン) 例) 学校像, 教員像, 児童・生徒像	
○子どもが元気	学校は、子どもにとって安全で安心できる場所であり、心身ともに充実した学校生活を構築する
○教職員がやる気	教職は、児童の夢に向かって共に歩んでいける使命ある尊い職であることを自覚し、やりがいをもって職責を果たす
○地域に活気	学校がコミュニティの中心的役割をもって保護者、地域等と共育する学校づくりを推進する

調布市立学校における共通した領域 <短期的な経営目標>

	1 豊かな心(徳)	2 確かな学力(知)	3 健やかな体(体)
自己評価	(1) 具体的な取組	(1) 具体的な取組	(1) 具体的な取組
	①道徳科年間指導計画等に基づき、板書の見える化を図りながら、「考え、議論する道徳」を推進し、自己を見つめ道徳性を育む指導の充実を行う。	①校内研究の取組として、分科会で設定した各教科等の目標を達成させるための学習者用端末を活用した単元指導計画等を作成する。	①「わくわくタイム」「マラソン旬間」「なわとび旬間」「ロング昼休み」等の取組や、体力テストの取組結果の分析等を生かして、体力の向上を図る。
	②異学年交流活動の推進を図る。委員会、クラブ、縦割り班活動を充実させ、互いを大切に作る心や望ましい人間関係を築く能力や態度を育成する。	②児童の学習意欲の向上と授業のねらいに迫るための評価に努めるため、「認め、ほめ、励ます」ことを心掛けた関わりを行う。	②新しい生活様式に基づいた取組を推進しながら、児童の心身の状況の把握、心のケアや感染者等に対する偏見や差別が生じないよう人権意識を醸成する指導を行う
	(2) 成果(数値目標に対して)	(2) 成果(数値目標に対して)	(2) 成果(数値目標に対して)
	①学校アンケート「豊かな心」の項目で、肯定的な回答率98%であった。	①学校アンケート「学力」の項目で、肯定的な回答率95%であった。	①学校アンケート「体力向上」の項目で、肯定的な回答率88%であった。
	②学校アンケート「人間関係」の項目で、肯定的な回答率96%であった。	②学校アンケート「授業が楽しい」の項目で、肯定的な回答率85%であった。	②学校アンケート「感染症対策」の項目で、肯定的な回答率97%であった。
学校関係者評価	①児童がお互いのよさを認め合う意見交流の授業が展開され、学び合いの充実を感じる。 ②6年生を中心に、縦割り班活動が進められ、子ども同士のよりよい関係づくりが進められていると思う。	①タブレットを活用した授業展開が多く見られる。1年生の児童からスムーズにタブレットを使いこなす様子は、学び方の変容と質の向上を感じる。 ②児童が落ち着いて授業を受けられている様子が多くある。教員と児童との関係性がよい様子が伺える。	①体育のみならず、体を動かす機会を多く取り入れていることは、児童の体力向上につながると思う。しかし、体力テストの結果は、国や都の平均に達していない項目が多く体力の課題を感じる。 ②感染症対策を徹底しながら、学校公開等と工夫して実施したことは評価できる。

学校の特色を生かした領域 <短期的な経営目標>

	4 特別支援教育の推移	5 生活指導の充実	6 地域学校協働本部の推進
自己評価	(1) 具体的な取組	(1) 具体的な取組	(1) 具体的な取組
	①ユニバーサル・デザインを配慮した環境整備や学習指導を行う。	①教育相談的な手法を取り入れた生活指導に努め、児童の自己指導能力の育成に努める。	①地域学校協働本部の活動や理解促進を図るために、啓発資料となる通信を発行する。
	②特別支援教育コーディネーターを中心に、特別な支援を必要とする児童の要因や原因を分析し、指導方針を決め、組織的に対応する。	②調布市立第三小学校いじめ防止対策方針に基づき、いじめ解消100%の継続及び、撲滅に対する児童の自主的な取組を推進する。	②地域コーディネーターを中心とした地域資源の活用を推進し、教育活動の充実を図るとともに地域人材による支援体制を構築させる。
	(2) 成果(数値目標に対して)	(2) 成果(数値目標に対して)	(2) 成果(数値目標に対して)
	①学校アンケート「環境整備」の項目で、肯定的な回答率98%以上であった。	①学校アンケート「生活指導」の項目で、肯定的な回答率95%であった。	①学期に1回以上の通信を発行した。
	②学校アンケート「特別支援教育」の項目で、肯定的な回答率96%であった。	②学校アンケート「いじめ対策」の項目で、肯定的な回答率96%であった。	②学校アンケート「地域連携」の項目で、肯定的な回答率97%であった。
学校関係者評価	①特別な支援が必要な児童への支援はもちろん、一人一人の児童に応じた指導に努めていることは、評価できる。 ②特別支援教育の理解促進を、保護者等に更に図る必要があると捉えている。	①個々の児童の状況に応じた指導に努め、児童が安心して学校生活が送れるよう取り組んでいることは評価できる。 ②いじめの事案について、学校は丁寧に対応し、その状況を適切に説明できることは評価できる。	①地域学校協働本部の活動がよく分かる啓発資料が多く配布されたことはよかった。 ②児童の学びを充実させることができる多くの体験活動や出前授業が多く取り組めたことは評価できる。

人材育成・組織運営

自己評価	①学習者用端末の利活用を図り、授業改善を推進する校内研究の取組を充実させることができた。 ②OJT研修を計画的に実施し、全教員の専門性を生かした学び合いの場を充実させることができた。 ③不登校支援や特別な支援が必要な児童のニーズに応じた支援体制を推進するために、校内委員会の運営改善やケース検討会議を設ける等して、組織的な校内体制の構築の充実を図ることができた。
------	---

学校関係者評価	<p>○調布市教育委員会研究推進校として、充実した校内研究の取組を推進することができたと評価している。</p> <p>○ベテラン教員と若手教員との学び合いの機会が充実していることが伺える学校の様子があることは評価できる。</p> <p>○特別な支援が必要な児童への対応を、学校が組織的に取り組んでいる様子があり、当該児童や保護者にとっても安心できる学校生活が送れると捉えている。</p> <p>○教職員の働き方について目標を掲げ、意識して取り組んでいることは分かるが、なかなか改善されない状況であることを認識している。業務の軽減や学校体制の在り方を改善する必要があると捉えている。</p>
---------	--

中期的な経営目標の達成状況
<p>①学習者用端末の利活用を促進した授業改善に全校挙げて取り組むことができ、研究発表会ではオンライン形式の発表を行うことができた。</p> <p>②学年組織を軸に当該学年の児童の学びの充実や生活指導等の取組をすすめることができ、児童の安全で安心した学校生活に繋がっている。</p> <p>③感染症対策の取組について徹底するとともに、オンライン授業を行うことで個々の児童の学びの保障を図った。</p> <p>④校内委員会やケース検討会議等の体制整備を図り、児童一人一人の状況に応じた支援の充実を迅速かつ丁寧に行うことができた。</p> <p>⑤教職員が予め児童の課題を捉えるとともに、児童が主体的に自己の課題を発見し、課題解決に取り組めるよう指導に努めている。</p> <p>⑥地域コーディネーターを活用した地域資源や人材を活用した取組を進めることはできたが、学びの更なる充実を図るため、学習目標の共有や授業展開の工夫改善は必要である。</p> <p>⑦OJT 研修を計画的に進めることができ、教員相互の学び合いの機会を充実させることができた。働き方改革については、課題意識を教員が抱くことはできたが、具体的な業務改善は不十分な状態にある。</p>
次年度の重点課題
<p>①学年・教科担任制を導入し、教員の専門性の向上を図ることで児童の学びの質を高めることや、児童を多面的に捉え児童理解を高めるための体制を構築することが必要である。</p> <p>②コミュニティ・スクールを導入し、学校運営協議会と地域学校協働本部の一体的な活動を推進し、地域とともにある学校づくりに取り組んでいく必要がある。</p> <p>③魅力ある学校づくりの推進するために、地域資源や人材を活用しながら学習活動を充実させる授業改善に取り組み、児童の主体性を育むとともに協働的な学びの機会を多く設け学習の質を高める必要がある。</p> <p>④多様な児童の状態を的確に捉え適切に対応していくために、スクリーニング等の個別支援システムを取り入れ組織的に支援する体制整備が必要である。</p> <p>⑤児童の体力向上や学級集団の士気を高めるため、業間体育を充実させるとともに、体力向上努力月間には、一学級一実践に取り組む。</p>